

"古民家"の定義は定かではありませんが、庶民の住まいであった「農家」はすっかり姿を消し、文化財として指定されている"古民家"は「豪家」「武家屋敷」など、特定のものです。昭和40年代の高度成長期には、急激な生活様式の変化に伴い、庶民の民家は淘汰され、文化庁による調査と文化財指定の推進によってこうした特定の古民家が生き残っています。

文化財価値として指定された古民家はともかく、まだまだ埋もれている 文化財価値の評価に至らない古民家は、改修によって新しい息吹を与えら れます。それは、文化財としての古民家は、現代の生活とは異なる歴史的 生活環境の保全といった側面を持っていることに対して、実際の生活を営 むことのできる空間を作り上げていくこととの違いがあります。

古民家といわれる建物が、その場所に存在してきた地域性と歴史を温存したままに使い続けられることに、"古民家"といわれる意義があり、その意義を活かせることがなにより重要です。

信州(長野)の民家の特徴

信州は南北に長い地勢から、地域ごとの気候・風土が異なり、また、関東と関西、あるいは中京や日本海の通ずる交通の結節点でもあり、物流や文化が交流する地域でもあります。

こうしたことから、住まいや建物もその気候・風土の違い、あるいは歴史的経過からいくつかの独特な様式が残されています。

[本棟造り]

長野県の中信地方から南信地方にかけて分布する形式です。切妻造り妻入りで、緩い勾配の屋根、梁間が大きく正方形に近い間取りで、真ん中を土間とし、床上は2列6室以上、真ん中は真っ暗な部屋ができるといった特徴と"雀おどし(「踊り」などとも)"と呼ばれ





る棟飾りのあることなどが特徴です。県内には多くの本棟造りが文化財として指定されています(写真、平面図は国指定 有形文化財の松本市にある平林家)。

雀おどしと呼ばれる飾りがついていなかったり、規模の小さかったりするものは、本棟造りと認識しない場合が多いようです。



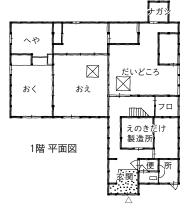
[中門造り]

母屋がL字型に突き出した「中門」に馬屋と便所を設け、冬季に雪に閉じこめられても生活しやすく造られており、中門の 先端に主要出入口を設けている点に間取り上の特色があります。

「中門造り」の民家は、日本海沿いの多 雪地帯に発達した民家形式であり、長野

県下では栄村を中心に分布します。

写真と平面図は栄村の阿部家住宅(県宝)で、「中門造り」民家の代表的なものであり、茅葺きの屋根、土間住まい形式など、素朴な民家形式の特色もよく保存されています。また、この住宅はその様式から1750~1770年ころにかけて造られたものと



推定され、この地域で最も古い時期に属します。建築意匠的にみても、外観は「中門造り」の草葺き屋根の形式を保存しており、内部には太い柱が数本立って重い積雪に耐える工夫がされるなど、地方的特色が顕著です。





[かぶと造り]

屋根の中が階層化しており、養蚕を行うため通風や採光が行われるよう工夫された形で、外観が兜に似ていることからこう呼ばれています。長野県以外にもこの形式は見られますが、妻側が切り落とされた兜の形式のものもあり、長野県の北信地域は桁側が切り落とされている形式となっています。

白馬村の青鬼地区(重要伝統建造物群保存地区指定:写真)はこのかぶと造りの古民家群で形成されていて、今でも

14棟の茅葺屋根(鉄板被覆)の大型家屋が昔ながらのたたずまいを残しています。 この地方のかぶと造りは、平入側(桁行き側)がかぶとを形作っていますが(「平 かぶと造り」とも言われます。)、全国には、東日本を中心に妻側にかぶとを形作 る形式(写真:東京都檜原村)がほとんどで、青鬼地区の形式は独自の形式とい えます。





[建てぐるみ]

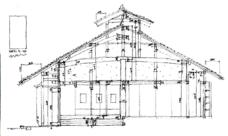
「建てぐるみ」とは、諏訪地域を中心に建て方の特徴で、母屋が土蔵を取り込む(写真)、あるいは接続して建てられるもので、土蔵を取り込むことによって、この地方の寒さに適応することや土蔵からの物の出し入れを外に出ることなく容易に行うことができること、屋敷地を有効に利用するという目的で、明治ごろから普及したこの地方独自の形式です。

[越屋根]

採光・換気・煙出しなどのため、屋根の上に、棟をまたいで一段高く設けた形式(写真:大町市中村家)です。

いろりを利用していた時代には、越 屋根があることにより、上部に上がっ た煙が抜ける効果がありました。







[大軒造り]

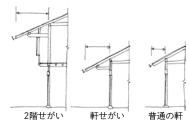
諏訪の茅野地方(八ヶ岳山麓地方)に多い形式であり、出梁、登り木、垂木などで構成され、9尺もの軒出がある家もあります。

深い軒の出により、農家ではその下を利用した農作業や農機具、収穫物を収納する ことができることから用いられた形式で、以下の「せがい造り」でもあります。

[せがい造り]

深い軒先を作るため、室内にある本桁から梁 を突出して桁を載せ、この部分に天井を張る工 法で、格式ある家の象徴で、神社などで見受け られます。

軒を長くすることで風雨や陽射しをさえぎる 効果があり、機能性と重量感のある伝統工芸で





長野市戸隠の民家(軒せがい)

す。構造的には屋根の重さを支える役目もあります。飯田市の大平宿には、せがい造りの様々な形式(上図参照)を見ることができます。